

【速報版】TV 報道検証 報告書

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年9月17日
----------	------------	----------------

出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙

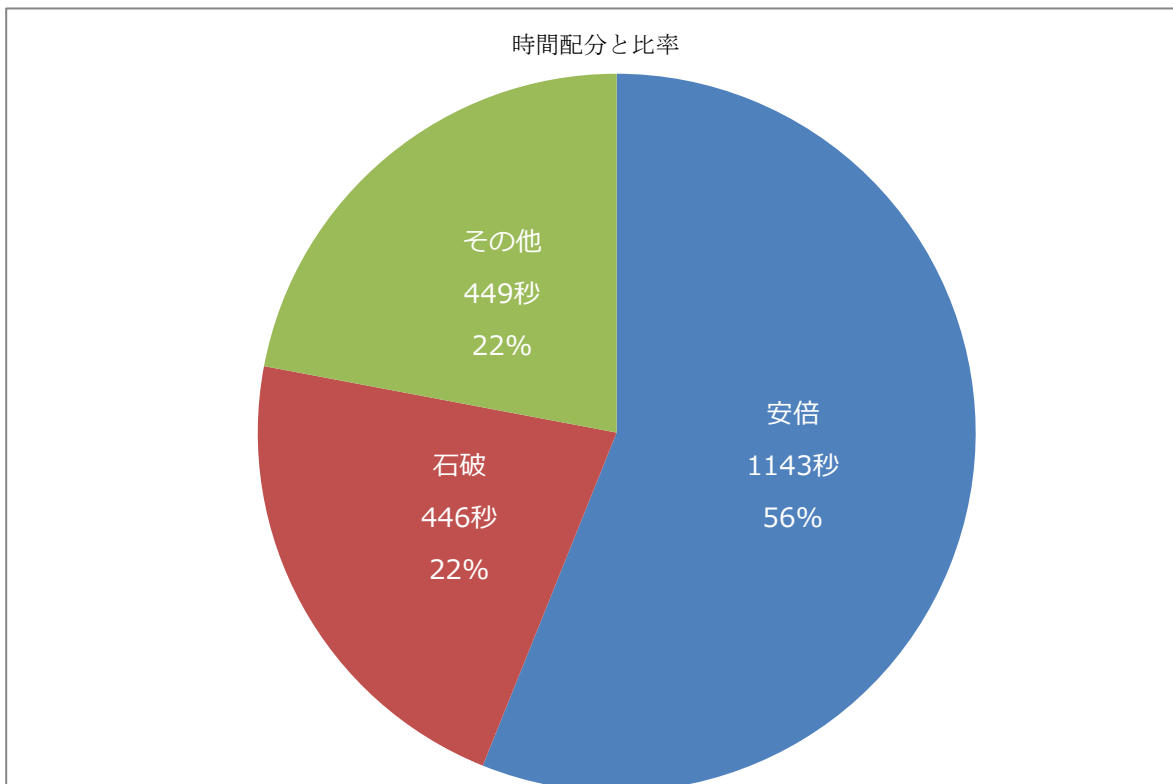
ゲスト：安倍晋三（自民党総裁候補）石破茂（自民党総裁候補）、遊佐勝美（TBS 政治部部長）

速報検証テーマ：総裁選両候補の直接討論

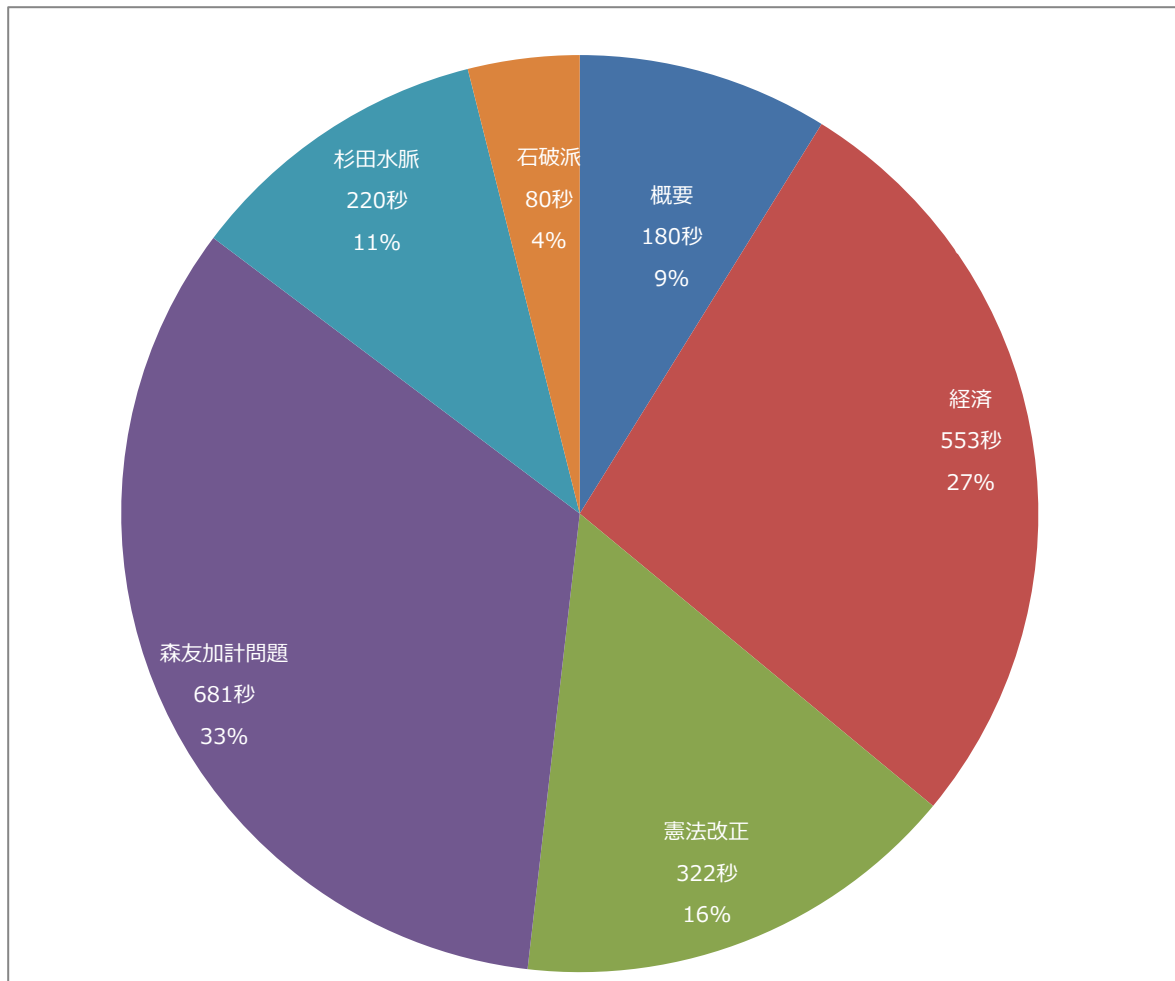
・速報検証テーマ報道内容文字起こし

総裁選の直接討論がスタジオで行われた。

安倍候補の発言している時間および、石破候補の発言している時間、そのどちらでもない時間の配分及び比率は以下の通りだった。なお、討論の導入での VTR の時間は「その他」、スタジオでの議論の際にキャスターや遊佐部長からどちらかの候補に問いかけたり発言を促したりしている部分については問いかけられたり発言を促された候補の時間として集計した。



また、概要の他に、スタジオでの討論で取り上げられた論点は経済、憲法改正、森友加計問題、杉田水脈衆院議員の「LGBTの生産性」問題、石破氏が田中角栄元総理や竹下登元総理を尊敬していることについて、だった。それぞれについて当てられた時間配分及び比率は以下の通りであった。



なお、討論の部分は OP、討論の部分、討論の VTR を終えてのスタジオでのやりとりの大きく三場面から構成されていた。それぞれの文字起こしについては下に示す。

【OP】

始	終	内容 (報道での発言を文字として記録)	備考
0:00:07	0:00:25	ナレ「決着まであと3日。自民党総裁選。参戦を目指す安倍総理か、それとも石破元幹事長か、六年ぶりとなった選挙戦はこの二	

		人の一騎打ちに。」	
0:00:25	0:00:31	石破「有効求人倍率が全部位置を超えた、でも給料が上がらないのはなんでなんだろうね。」	
0:00:31	0:00:38	安倍「給料が上がっていないわけではありません。中小小規模事業者についてはこの20年間で最も高い水準で上がっている。」	
0:00:38	0:00:42	ナレ「問われるアベノミクスの成果。」	
0:00:42	0:00:47	ナレ「そして、憲法改正にはどう向き合うのか。」	
0:00:47	0:00:53	石破「国民の皆さん形が日々憲法について関心を持っているはずがないんです。我々がいかに語るか。」	
0:00:53	0:01:02	安倍「政権を長らく安定的に進めていきたいのであればですね、憲法改正なんか私はやりませんよ、総理の椅子に座っていただきたいのであれば。」	
0:01:02	0:01:19	ナレ「総裁候補が思い描くこの国の未来像とは、っ徹底討論はこのあとすぐ。」	
0:01:19	0:01:33	一同「こんばんは」 雨宮塔子「この国をどこに導くのか、安倍総理と石破元幹事長による討論は後ほどたっぷりご覧いただきますが、まずは連休最終日のニュースからです。」	

【討論本編】

始	終	内容 (報道での発言を文字として記録)	備考
0:08:18	0:08:27	雨宮塔子「今夜は、自民党総裁選に立候補したお二人を招いて討論を行いたいと思います。ご紹介致します。」	
0:08:27	0:08:34	雨宮塔子「自民党総裁の安倍晋三内閣総理大臣です。」 安倍「こんばんは、よろしくおねがいします。」	
0:08:34	0:08:40	雨宮塔子「そして、石破茂も元幹事長です。」 石破「こんばんは、よろしくおねがい致します。」	
0:08:40	0:09:08	星浩「ぜひ、あの骨太の議論をね、お願いしたいと思います。」 雨宮塔子「そしてTBS政治部の遊佐部長にも議論に加わっていただきます。」 遊佐「よろしくおねがい致します。」 雨宮塔子「今夜はできるだけたくさん議論をしていただきたいのでお一人一分程度でお話していただけるようお願いいたします。一分をすぎるとですね、こちらですね、こちらのランプが点滅致します。では早速ですが、まずこちらをご覧ください」	

		い。」	
0:09:08	0:09:14	雨宮塔子「10日の会見で安倍総理が示した安倍政権の六年の成果です。」	
0:09:14	0:09:24	ナレ「安倍総理は告示後初めての演説でアベノミクスの成果を強調しました。」	
0:09:24	0:09:53	安倍「生産年齢人口が450万人減少する中においても、経済が12.2%成長した。そして雇用は250万人増え、正規雇用も78万人増えました。北は北海道から南は沖縄まで全て47の都道府県で有効求人倍率が一倍を超えました。」	VTR
0:09:53	0:10:10	ナレ「安倍総理は景気回復が地方にも広がっているとし、地方税収が過去最高の40兆円になったとしました。野党側の格差が広がっているとの指摘に対してはこう反論。」	VTR
0:10:10	0:10:35	安倍「8割台だった生活保護世帯の子どもたちも大学進学率は初めて9割を超え直近で93%にナりました。そして、子どもの相対的貧困率、政権交代後初めてそれが減少に転じ、大幅に改善しました。」	VTR
0:10:35	0:10:44	ナレ「数字で示したアベノミクスの実績、果たして国民の実感は」	VTR
0:10:44	0:11:05	星浩「いまのVTRにもありましたけど、株価とか雇用、そういう意味では非常に成果が上がっているんですけども、一方でまあ経済ですから光と影の部分があります、こういう数字があるんですね。」 雨宮塔子「こちらです。アベノミクスによる景気回復の実感があるか、ないか。実感が無いと答えた方が8割を超えているんですね。」	
0:11:05	0:11:20	星浩「あの、ちょっといいですか、あの各紙の調査でだいたいこんな数字なんです、それでなんか株を持っている人がこの位の数字に近いという説も会って、その恩恵が今ひとつ広がりがないと、この点いかがですか。」	

0:11:20	0:13:09	<p>安倍「あの、今の生活に満足しているか、という調査があるんですね。これ相当多数の世帯で調査をしている数字です。これご承知のように74.7%、過去最高になっています。一方満足していないという数字は過去最低になっている。ですから数値で我々言うしかないですね。満足度はどうか、って。これはあの、ずっと今の数値については継続的に皆さん計測はしておられませんよね。10年前、計測しておられませんよね。我々政権取る前計測しておられませんよね。ですから比較が、できないんですが。その中でですね、例えば株価、これが上がった。例えば、株を持っている人しか利益を得ていないのか、といえはそれはそうではなくて、例えば、年金の運用は株式市場で運用していますこれは53兆円プラスになりました。140兆円規模が53兆円規模大きくなっていますから、いま年金財政で大変だ、っていう話、あんまりしていませんよね。ですからそういう意味において経済の指標を良くしていくっていうことが大切であって、で、みんな働く場があるかどうか。ですから例えば正規雇用、政権交代前は二人に一人分の正規の雇用しかなかったんですが今は一人の正規、正社員になりたいという人に対して一人分の正規の雇用がある。あと、先程の私の発言は訂正しなければいけないんですが、」</p> <p>雨宮塔子「総理、簡潔に。」</p> <p>安倍「あの、訂正しなければいけないんですが、生活保護世帯の高校進学率、アレは高校進学率が8割台だったのが9割を初めて超えた、大学進学率はひとり親家庭の皆さんの大学進学率が24%から42%になったということです。」</p>	
0:13:09	0:13:11	星浩「石破さん、今実感の問題、いかがですか。」	

0:13:11	0:14:36	<p>石破「ですから、有効求人倍率が全部1を超えた。でも給料が上がらないのはなんでなんだろうね、っていうことなんだろうねと思います。それは雇用のシフトが起こっているんで、男性から女性の非正規に移っている、製造業からサービス業に移っている、生産年齢人口から高齢者層に移っている。そういう雇用のシフトが起こっているわけですよ。で、シフトしちゃった側のほうが並べて生産性が低い、給料が低い、だから有効求人倍率が全国で1を超えても給料が上がらないということが起こるんですね。でもう一つはつい最近のデータですけども全国24万社、リーマンショックから10年。どうなったんでしょうね。利益は62%増えたんです。売上は2%減ったんです。売上が2%減って利益が62%増えたんで、これどういうことなんだ。どこかでコストカットが行われているわけですね。そうでなければこういう数字になりませんのでね。ですから、株が上がった、いいことです。有効求人倍率が上がった、いいことですね。大企業が儲かった、いいことですね。ではそれがそのまま地方や中小企業に行くかって言うと、それは別のメカニズムで動いているからそっちを最大電伸ばしたいと思いますね。」</p>	
0:14:36	0:14:58	<p>星浩「そこでですね、あの、今のやはり景気の中では消費が今ひとつ勢いが無い、特に若い人の話を聞くとやっぱりその将来不安っていいですかね、社会保障大丈夫かな、とか、それから国がまあ1000兆円の借金があるもんですから誰かが払わなくちゃいけないということになると、将来不安について社会保障も含めてですが。」</p>	
0:14:58	0:15:00	<p>星「安倍総理はどういうふうに考えて」</p>	

0:15:00	0:16:50	<p>安倍「ちょっと今の認識は間違いがあるので申し上げておきますと、働き盛りの世代についてはですね、非正規から正規に移るの方が正規から非正規に移る方、逆転しました。ですから、それは違うんです。しかし、高齢者増えていますから、退職した方は継続使用で非正規になるという人は増えていますよ、でも働き盛りはそうではない。それが実際問題としてもですね、正社員の有効求人倍率が増えているんですから、非正規の人が正規に移ろうと思ったってできるんです。例えば富山県や福井県でも正規の有効求人倍率が1.1617になっている、これはもちろん史上はじめてのことなんです。すると、これ給料が上がっていないわけではありません。最低賃金120円以上上がりましたね。で、今年度はですね26円、これ28年ぶりの高い水準で上げています。そして中小規模事業者については、この20年間で最も高い水準で上がっている。もちろん企業が上げていく収益の伸び率よりまだ低い。これは残念ですよ。でも10%利益が上がったからって10%給料上がりませんよね。10%下がったら10%下げないのと同じことですから、これからもっとしっかり伸びるようにしていきたい。それと今のご質問、」</p> <p>星浩「将来不安ね。ちょっと短くお願いしますか。」</p> <p>安倍「将来不安についてはですね、財政健全化PBの目標25年にしましたが、しっかりとこれに到達するように、例えば税収もですね過去最高の税収60兆円を超えるような状況になってきました。税収を増やし、そして再出もしっかりと適正化を行いながら財政健全化も進めていきたいと考えています。」</p>	
0:16:50	0:16:57	<p>星浩「石破さん、その将来不安があるのでね、消費がなかなか伸びてこない、と。このへんはどういうふうにご覧になっていますか。」</p>	

0:16:57	0:18:06	石破「それは、これだけ金利が低くてね、貯金が増えているというのは一体どういうことなんだろうね、っていうことを我々真摯に受け止めないといけないと思いますよ。今の20代30代40代の方々が本当にこの国の債務はどうなっていくんだろうか、年金は仕組みのとして破綻しないけれど、貰う額って減っていくんじゃないか、医療や介護っていうのはものすごく増えているわけですよ。西暦2040年には社会保障費って1.6倍になりますよね、そうなったら本当に医療は承けられるのだろうか、介護は承けられるのだろうか、そういう不安はものすごくあるんです。これは安心ですよということを示していかないと、どうしても手元に現金おいておこう、そういう方々が増えるのはこれはもう自然の成り行きだと思っていますね。ですから、消費税を上げますって言うだけではだめなのであって、社会保障をどうやって変えていきますかっていうのを一緒にやっていかないとこれは手元にお金が残るだけっていうことになってしまう、そうすると経済が回らないということになりますですよ。それは社会保障の改革、合わせてやる必要があります。」	
0:18:06	0:18:11	雨宮塔子「はい、続いてはこちらのテーマです。」	
0:18:11	0:19:23	ナレ「安倍政権を大きく揺るがせた森加計問題、問われたのは利害関係者との距離感です。国有地を格安で購入した森友学園、名誉校長を務めていたのは昭恵夫人でした。」 籠池泰典（森友学園理事長：当時）「安倍首相、あるいはその昭恵夫人の心を心として忖度をして動いてきたのではなからうかな、というふうには思っております。」 ナレ「財務省は当時理財局長を務めていた佐川氏のもと、決裁文書から昭恵夫人の名前を消すなど改ざんにも手を染めていました。一方、52年ぶりに新設された獣医学部、加計学園が事業者が決まる前、安倍総理と加計学園の理事長は何度もゴルフや食事をともにしていました。安倍総理はその当時加計学園が獣医学部新設を計画していることを知らなかったとしています。」	VTR
0:19:23	0:19:40	大串博志衆院議員（民進党：当時）「加計学園が申請しているということを今年の1月に認められた時に初めて知ったということですか。」 安倍総理「知った時期については今申し上げたとおりでございます。」	VTR

0:19:40	0:19:59	ナレ「しかし、これより2年ほど前の愛媛県の文書には当時の総理秘書官が本件は首相案件と発言していたと記されていました。ただ、本人は発言を否定していて食い違いを見せています。」	VTR
0:19:59	0:20:26	星浩「はい、まず森友学園問題ですが、振り返ってみますとね安倍総理が関わっていたら総理も国会議員も辞めるという答弁がありました。あの段階でですね、仮に総理がもし自分と昭恵夫人の問題があるなら調べてみよう、と、精査してみよう、って言うことでしっかりと精査して決裁文書もチェックしていれば問題はこんなに広がらなかったような気がするんですが、そのへんの反省はいかがですか。」	
0:20:26	0:22:33	<p>安倍「あの、確かにですね、私の妻が名誉校長を務めていた。そして私の友人が関わっていたことですから、国民の皆さまが疑念を持たれても当然のことだろうと思います。しかし、私自身が一切指示をしていないということは明確に自信を持っていました。妻地震がその売買にあるいは認可に係るはずがないとについても確信をしておりましたから、あのよう</p> <p>に申し上げた。で、事実ですね4000ページこれはおそらく皆さんもあまり読んでおられないんだろうと思いますが、」</p> <p>星浩「読みましたけど。」</p> <p>安倍「本当ですか。」</p> <p>星浩「はい、もちろん読みましたよ。」</p> <p>安倍「4000ページ。」</p> <p>星浩「仕事上。」</p> <p>安倍「で、その4000ページにですね、私が指示したって言うこと、出ていました？ 出ていませんよね？ うちの家内が頼んだということ出ていますか？ 出ていませんよね？ ですからそれは明らかになっている、しかし、一方ですね、そういう疑いを持たれてもこれは当然だと思いますから、我々もしっかりとですね、そういう意味においては我々自身も、今後、李下に冠を正さずという気持ちでですね、対応していかなければ行けない。まあ今読んでないんじゃないんですか、って失礼なことを申し上げましたが、でも多くの方はおそらく4000ページも読みませんよね。その上で報道されている。あと、先ほど秘書官があったと、それはもう秘書官も認めました。しかし、あれからですね、あれから獣医学部の議論が始まったという報道がずいぶんありました。でもそうではな</p>	

		<p>くて半年会えにですね、特区会議で、有識者が発議をしてそこから議論が始まりました。」</p> <p>星浩「加計問題はまた」</p> <p>安倍「この問題についてはですね、ほとんど報道されていないですね、こっちは報道されていない。半年前に実はその議論が始まっていたのに、でもこっから議論が始まったかのごとくの報道がありましたから。そういう誤解についてもですね、質問をされれば一つ一つ丁寧にお答えをしていきたいというふうに考えています。」</p>	
0:22:33	0:22:54	<p>星浩「あの、森友学園の国会の議論の中にですね、その総理の答弁の中でもその佐川さんの国税庁長官になったことに適材適所だったっていう答弁があったんですね、アレはやはり一般の国民からしたらそうかな、っていうおそらく素朴な反応があると思うんですけどもこのへんはいかがですか。」</p>	
0:22:54	0:23:19	<p>安倍「あの、基本的に人事についてはですね、どういう人をどういうポストにつけるっていうことについては所掌の大臣が考え、そして最終的には我々がそれを承認するっていうことでありますが、基本的には適材適所ではない人事というのを我々が行うつもりはありませんからそういう意味でそういうふうにお答えをしている、ということでございます。」</p>	
0:23:19	0:23:40	<p>星浩「それから加計学園の問題ですが、あの、やはり加計孝太郎さんがいずれその利害関係者になる可能性があったわけですね、その許認可ということで、その利害関係者になるかもしれない加計さんとやはりあの頻繁にゴルフ会食を重ねたというのは率直に言って総理そのまづかったなという気持ち</p>	

		はあるんですか。」	
0:23:40	0:24:52	<p>安倍「結果としてはですね、そういう形になりましたので、今から考えればですね、そういう結果になるとは私思ってもみなかったわけですから。でも今から考えればですね、そういうことにも貴慮すべきだったナ、とこう思っています。ただ、はっきりと申し上げておきたいのは私、いわゆる利害関係者から一円も献金を承けていないわけですから、加計さんからもそうですし、もちろん、あの、獣医師会からも私一円も献金承けていません。ですから、そういう意味に負いては今までの様々な国会を巡る事件とは一切、これは関わりのない話であって、一部報道ではロッキード事件とは同じだという報道もなされましたよね。ずいぶんなされましたよ。私の妻の名前でアッキード事件といういわばレッテル貼りもですね、報道でなされていました。しかし、そういうのではなくて、全くそういう献金というのは一切ないということはもう明らかになっていますよね、しかしただ、今干しさんがおっしゃったように友人であるから疑われるということについては、注意深くしていなければならない、というふうに思っております。」</p>	
0:24:52	0:25:05	<p>星浩「そうですね、例えば金融庁の幹部が友達だからといって、メガバンクの頭取とこれほどそのゴルフとか会食を頻繁に重ねるって事自体、いかがってということになると思うんですよね。」</p>	

0:25:05	0:26:06	<p>安倍「ただですね、」</p> <p>星浩「お金がないにしても」</p> <p>安倍「ただ、星さんがおっしゃっているのはそういう利害関係があったから親しくするというのではなくて、元々の友人ですから、利害関係ができて、例えばかつての財務省の大蔵省時代の事件がありましたよね、アレは利害関係ができて、いわゆるもふたんの人たちと付き合いができた。で、私の場合はずっと付き合っているわけでありまして。だから、利害関係ができてからですね、友人になったのではないわけでありましてから、ですから、金融庁の人がですね、金融庁の人が知り合うというのは例えば仕事柄知り合うわけですよ、それとは全然知り合うところをですね、意図的にそういう」</p> <p>星浩「学生時代の友達でも金融庁の幹部とゼネコンの頭取はゴルフをしてはいけませんよ。」</p> <p>安倍「ゼネコン？」</p> <p>星浩「あの、メガバンクの人、と、金融庁の幹部は学生時代友達だったからいいだろう、っていう理由にはならないですよ。」</p> <p>安倍「ゴルフをしてはいけないというのは、いわば。」</p> <p>星浩「例えば会食をしてごちそうになったり。」</p>	
0:26:06	0:26:54	<p>雨宮塔子「石破さんにも聞いてみましようか。石破さんでしたらね、例えば加計さんのような立場にある方とお友達だったとしてもゴルフはしますか。」</p> <p>石破「うーん、それは自分が権限を持っているときはしません、少なくとも、ですから。やっぱり職務権限は持つてるわけですよ、私も国家戦略特区担当大臣でした。少なくともそういう権限を持っている間は接触はしない、それはあらぬ誤解を招いてはいけませんのでね、そういうことだと私は思っています。ですから、そこは、本当に長年の友人であっても、私もいますよ、そういう友人はね、ですけども職務権限を持っている間はそれはもう接触はしない、そういうもんだと思います。」</p>	

0:26:54	0:29:27	<p>安倍「ただ、ですね、あの星さんちょっとゴルフに偏見を持っておられると思います、あの、今オリンピックの種目になっていますから、ゴルフが駄目でですね、テニスはいいいのか、将棋はいいいのか、ということなんだろうと思いますよ、ただまあ公務員の倫理規定の中にはゴルフが入っていてこれはまあ色んな議論があります、ゴルフをやっておられる方からはそれは本当になくしてもらいたいと強い要請もあります、そういう色眼鏡で見られますから、ゴルフをやっているとですね何か良からぬことをしているのか、という誤解をおそらく持っているんだろうと思いますが、まあそうではないですよ、ゴルフもやっぱりスポーツの一つですからその中においてですね規定があればそれに従うのも一つでしょうし、公務員には公務員の倫理規定がありますからその中で動いて、でも政治家の場合は例えば私、経済界の人たちともゴルフはします。それが良くてですね、こう言うくらいの人ならいいけれどもあまり世の中から知られていない人とやってはならないということやってはならない、ということでおっしゃっているのであればですね。」</p> <p>星浩「利害関係者ということを行っている。」</p> <p>安倍「利害関係者ということであればですね、私はいつでもその維持できませんから、そこではちゃんと私は自分の分は払っています。」</p> <p>星浩「許認可を申請する人と許認可をする人」</p> <p>安倍「許認可をしてるかどうかということ私はそこでは本当に知らなかったわけで有りますから、それはそういう、であと星さん大切なことはですね、これ本質論をここで議論したいと思うのですが、やっぱり政治というのはプロセスが果たして透明で適切かということだと思います。その意味においてはですね、この獣医学部、を始め特区問題については議事録を公開しております、そして特区プロセスに関わってきた人たち八田座長を始めですね、多くの方々、あまりみなさんそれは取り上げていただけていないんですが、一点の曇もないということをおっしゃっていますよね。この方々が決めていくわけでありまして、ですからそこはですね、果たしてどうかということをおっしゃっていただく必要があるんだろうと思います、ただ、議事録の中にですね、議事録自体を誰がこういったああいったということはちゃんとその人に確か</p>
---------	---------	---

		<p>めて、その議事録を書いていこうというふうに今度変えていきます、より一層透明性を高めていく必要はあるのかなあと思います、今後もですねこの問題について今のように問われればしっかりとお答えをしていきたいというふうに思いますので、公平な報道をよろしくお願い致します。」</p>	
0:29:27	0:29:40	<p>星浩「ええ、では次の話題に入りますが」 雨宮塔子「続いてはこちらですね、杉田議員の発言です、彼ら彼女らは子どもを作らない、つまり生産性がないのです。」</p>	

0:29:40	0:31:24	<p>雨宮塔子「ええ安倍さん、杉田さんは謝罪も撤回もしてませんよね。」</p> <p>安倍「あの」</p> <p>雨宮塔子「そして党としても。」</p> <p>安倍「私の夫婦もですね、残念ながら子宝に恵まれていません、だからといってですね生産性がないと言うと大変、つらい思いに私も妻もなります、ですから政治家というのは自分の言葉によって人がどのように傷ついているかって言うことについてはですね、十分に考えながら発言をしていくべきなのだろうな、とこう思います。で我々同じ自民党ですから、あんたおまえもうやめろ、というのではなくてまだ若いですから、そういうことをこれからしっかりとですね注意をしながら、仕事をしていってもらいたいと、先輩としては私はそういうふうに申し上げていきたいとしますし、党としてもですねいわば多様性についてですね、尊重する党であります。で、私もですね、例えばルクセンブルグの首相はですね、もう同性婚をしているということをカミングアウトしていますが、私、彼はもっとも親しいヨーロッパの首脳の一人です、まあ彼からはなにかヨーロッパでなにかわかんないこと、こまったことがあればすぐに電話してもらいたいと携帯電話の番号まで聞いています、つまりこういう多様性が世界で求められている中でですね、それを十分理解をしていくことができますね、求められているんだろうなと思いますし、自由民主党がですね、そういう党ではないということではないということとは申し上げておきたいと思っておりますし。」</p>
---------	---------	---

0:31:24	0:33:07	<p>雨宮塔子「石破さん」</p> <p>石破「当たり前の話ですけどもお子さんを産まないのは生産性がないのです、それは生産性の理解が全然足りないんじゃないですか、今、我々は生産性を上げていかなければいけない、このお金出してもこんな物欲しいなっていう商品を作っていく、それが経済学的に言う生産性であってお子さんを産む産まないなんてなんの関係もない、それは生産性が低いのです、いいきること、それは私は全く正しいことだとは思わないですし、多様な意見があるだからいいんだっていう自由民主党であっていい、と私は思わないですね、これでどれほど傷ついた人がいるだろうか、LGBTの方ってのはだいたい8%くらいいらっしゃるわけですね。そういう人たちがなんの偏見もなく個人として尊重されるそれが自由民主党の目指す姿なのであって、そういう人たちの気持ちを傷つけていい、などということにはならないし私も総理も中国ブロックですけどもこの人中国ブロック実質比例第一位です。我々中国地方が出しているということになっているんです、1票入れてくださった方々に我々は説明する責任をおっているんです、彼女が一位になったってのは解散のソニ費に知りました。それは本当にいいことなのだろうか、自民党の色々な人達がいる、中国ブロックにいる、党のために一生懸命頑張った人もいる、そういう人たちと比較をしてみても誰がいいんだろうっていうことを決めるのをやっぱり等が国民に対して果たすべき責任だと私は思っている、これが多様性があるいいことだ、って私はそんな自民党であってほしいとは思わない。」</p>	
0:33:07	0:33:32	<p>星浩「石破さんに一つお聞きしたかったのですが、尊敬する政治家として田中角栄さんとかですね、竹下さんを上げていますよね、田中さんとか竹下さんはやっぱりこうどんどん仲間が増えて派閥が大きくなって100人120人なってきましたけど、石破さん今ひとつその増えないのはなんかどういう理由があると自分で見ているんですかお金ですか、それとも性格ですか。」</p>	

0:33:32	0:34:27	<p>石破「そう、お金はそんなにはないですけどね、でも、やっぱりこうなんですか、やっぱりこう、もっと食事をしなさいと兼ね、もっとお酒を飲みなさいと言われるんですけどもね。私は派閥がどこであろうと、大臣のときも、幹事長のときも政調会長のときも、私が今日応援に行く人は何派だっけ、なんてなことが多くてね、やっぱり一番選挙、この人を頼みますよ、自民党の同志をお願いしますよ、っていうこと、私は回数としては誰よりも多く言ってたかもしれない。ですから、その人が国会議員になる、そのお手伝いをする、っていうのが私は一番大事なことだな、とっております。ですけどもいま星さんのご指摘はやっぱり自分にも至らないこともあるんだろうね、ってことで、お前ね本ばかり読んでないでもっと飲むんだよ、っていうご指摘はもっと謙虚に受け止めてなきゃ、飲まないわけじゃないんですけどね。」</p>	
0:34:27	0:34:56	<p>星浩「えーと、時間が押してきました、最後憲法の話をしてみたいと思うんですが、」</p> <p>雨宮塔子「こちらをご覧いただきたいのですが。」</p> <p>星浩「たしかに今回の総裁選では焦点になっていますけれども、その世論調査をするといつもですね憲法のランクが低いんですね。」</p> <p>雨宮塔子「総理に期待する政策はなんですか」</p> <p>フリップ「年金・医療 23% 景気対策 15% 消費増税と財政再建 13% 子育て支援と教育 12% 外交と安全保障 8% 災害への対応 4% 地方創生 4% 原発・エネルギー政策 4% 憲法改正 4%」</p> <p>星浩「これはやっぱりエネルギーを注ぎ込んでほしいのはここじゃないと世の中の人には思ってるんじゃないか、と、そういう意思表示とも見られるんですけどもそのへんはどう思いますか。」</p>	

0:34:56	0:35:59	<p>安倍「それは本当にそうなんだろうと思います。自由民主党がですね、60数年前に結党された目的は2つあったんですね、当時の自由党、民主党本当に仲が悪かった、これは星さんご存知のとおりですが、一緒になったのは2つ目的がある、一つはですね占領時代に決められたものを変えていこう、。保守同士がいがみ合っていてはできないな、と。そこで憲法とか、教育基本法がそうですね、で、二番目の目標、これはですね、当時はまだ貧しかった、やっぱり安定した政治勢力を作ってそして安定的に経済政策を進めて豊かになっていこう、でやっぱりこの二番目の目標をずーっと私は進めてきてかなり達成されてきた、しかし一番目の目標は後回しにされた、デコレは政治的に視座も変わりますよ。私にとってもたくさんリスクが有る。でもやっぱり私は当選当初から憲法改正に取り組んでいくということを申し上げてきた、ハードルは高いですけれども既に六年間任期を詰めさせていただいた以上、これに挑戦していきたいと思っています。」</p>	
0:35:59	0:36:13	<p>星浩「石破さんはあの、憲法改正の議論はやっぱり野党を巻き込んでやるべきだっていう立場だと思うんですけど、とくにその今野党第一党第二党そのへんとの間合いですね、話し合いをどういうふうに考えているんですか。」</p>	
0:36:13	0:37:21	<p>石破「日本国憲法ですからね、国の最高法規ですから、一つでも多くの政党、一つでも一人でも多い方の賛同を得なければいけない。法律とは訳が違いますのでね、ですから私は今当選11回ですけど、選挙の時に憲法について語らなかつたことは一度もない、必ず語る。国民の皆さん形が日々憲法について関心を持っているはずがないんです、我々がいかに語るか、なんです、どうせ分かってもらえないや、票にならないや、だったら押し切っちゃおうとかそういうことであってはいけないので、じゃあ九条に限らずですよ、他にも色んな条文がありますよ、常に選挙の時に、選挙じゃなくてもこちらから語らなければ国民の理解は高まっていかない。どうせわからないからっていうそんなことをしてはいけない、そういう地道な努力をしつつ、なお国民が早くやってほしいねって言ってる年金とか医療とかそういうものに力を注いでいくそういうものだと思います。」</p>	

0:37:21	0:37:34	星浩「ええ安倍さん、最後になりますけど安倍さん、野党第一党第二党との話し合いですね、それがやっぱり必要なのか、それとも仮にその話し合いが整わなくてもやったほうがいいのか、そのへんはどういうふうに考えていますか。」	
0:37:34	0:38:40	安倍「それは憲法改正ですか。」 星浩「憲法改正。」 安倍「はい。憲法改正、今石破さんが押し切っているものではないって、これはあの憲法はですね、押しきれません。国会は衆参で三分の二で発議するのであって決めるのは国会ではありません。」 星浩「でも発議をする時に与野党が」 安倍「いや、決めるのはですね国民の皆さんが決めるのですね、これはまさに国民のみなさんが権利を行使する、反対であろうと賛成であろうと行使するわけでありまして。国会は反対であろうと賛成であろうと行使するわけでありまして、国会はこういう案はどうですかというものを提供するに過ぎないと私は思っています、で国民の理解を得るためにはまず案を出さないと理解の仕様がありませんよね、もちろん第一党第二党みんなが賛成していただければありがたいんですが第一党の例えば枝野さんはですね、安倍政権の間は憲法を議論しない、とおっしゃっていますよね。それであれば、ああこれはもうしょうがないなという気がします、例えば他の党の方はですねだいぶ理解を示していただいている方もありますから、できるだけ多くの方に賛成していただきたいと思えます。」	
0:38:40	0:38:44	遊佐「そうすると立憲民主党の枝野さんとも粘り強く協議していくってということ？」	
0:38:44	0:38:51	安倍「まあ安倍晋三が嫌いかもしれませんが、好き嫌いで判断しないで中身で決めてくださいよ。」	
0:38:51	0:38:54	遊佐「でもどっかで打ち切りとかいう考えは」	
0:38:54	0:39:29	安倍「いや、これ三分の二ですからどっかで打ち切っているのは最終的に成立しませんから。成立するのは国民が投票するんですね、じゃあ国民のみなさん葉ですね、じゃあ自分たちの権利どうしてくれるんだよ、三分の一ちょっとの人が反対していれば自分たち国民の権利行使できないのってということでもありますよね。で、例えば政権を長らく安定的に進めていきたいのであれば憲法改正なんか私はやりませんよ、	

		総理の椅子に座ってほしいのであれば、ではなくてやっぱり目指すべきことをしっかりと責任を持ってやっていきたいと私は考えています。」	
0:39:29	0:39:44	雨宮塔子「はい、まだまだたくさん話したいことがあるんですけど、時間が来てしまいました。また機会があったらぜひ議論をいただきたいと思いますありがとうございました。」	

【討論を終えて】

始	終	内容 (報道での発言を文字として記録)	備考
0:39:44	0:40:50	<p>雨宮塔子「経済や憲法など多岐にわたる討論でしたが星さんが注目したのはどこでした。」</p> <p>星浩「まあやはりね、その加計孝太郎さんとのゴルフや会食の問題に安倍総理がどういうふうに率直に答えるかっていうのに注目したんですね、やはりその政府に許認可を求める加計さん、それから許認可を与える安倍総理、という立場ですからね、やはり慎重であるべきだという気がするので、そういう角度から質問しましたが、安倍さんはそのはやり許認可を申請するかどうか知らなかったんだ、という反応なんです、これはおそらくこれからも国会でね相当議論になると思いますので、注目していきたいと思いました。」</p> <p>雨宮塔子「その点、石破さんの見解は明確でしたよね、」</p> <p>星浩「そうですね、石破さんはその職務権限を持っている大臣の間、大臣などを務めているときはやはりその利害関係者との接触は慎むべきだという、スタンスでしたよね、それは明白でした。そこは安倍さんとの差がかなりはっきりでたかなという気がしました。」</p> <p>雨宮塔子「3日後の20日に新しい総裁が選出されます。」</p>	